



MORIOKA
ROTARY CLUB WEEKLY

第16回例会(11月2日)
平成30年11月9日発行

クラブ事務所 岩手県盛岡市菜園1丁目10 会 長 坂本広行
川徳デパート内 幹 事 藤村吉隆
例 会 場 同上 TEL 019 (651) 1111(代) 会 報 吉田幸一
例 会 日 毎週金曜日12時30分～ クラブ事務局 TEL 019 (653) 5682
http://www.morioka-rc.jp/ FAX 019 (653) 5622

RI会長テーマ BE THE INSPIRATION:インスピレーションになろう…バリー・ラシン
盛岡RC会長テーマ -80年の歴史と伝統、繋いでいこう奉仕と友情-坂本広行



会員卓話

マイ・コレクション —英国古陶のスリッパウェア—

小川 惇 君

今日はマイ・コレクションと云う事で私の趣味のコレクションの話をさせていただきます。

タイトルは「ワン・イングリッシュ・スリッパウェア」となっておりますが、イギリスの女性の下着のスリッパウェアを集めているわけではありませんので誤解のないようお願い致します。

そして、コレクターと云うものは、ただ物を集めて密かに楽しんでいるだけでなく、コレクションを自慢したくてうずうずしているもので、私も何十年もそういう思いをしてきましたが、もう86歳にもなりましたので、この辺で自慢おさめをしてよいのかなあと思っていたところ、先月のアッセンブリーで海野プログラム委員長から11月2日の枠があいていると云われましたので、手を挙げた次第です。

80年のコレクションの積み重ねを20分で話すことはとうてい出来ないことで、今日はそのさわりだけの話になると思います。

コレクションをはじめたのは子供のころに土器の破片やヤジリなどの石器を集めたのがはじまりで、これは現在手元にあるもので古代の包丁石器は山田町の大沢で私が見つけたものですが、あとは日本だけでなくカナダ・フランス・デンマーク・スウェーデンのみの市で見つけた形の良いものだけを集めました。緑のマガタマは出雲の玉造温泉で買ったものです。

本格的に集めるようになったのは、大学から東京の設計事務所に勤めるようになってからで、最初は安いそばちょこなど陶磁器を中心に古いものを集めました。

1972年、今から47年前に東京目白の裏通りに小道具「坂田」と云う小さな小道具屋がオープンしました。その店には私の好みの波長があった品物を置いてあることを知って、その店にかようのを楽しみにしておりました。座っているのが坂田さんで現在80歳近い人です。

しかし、44年前に私が盛岡に戻って来ましてので、古道具屋「坂田」との縁が途切れてしまいました。

ところが、38年前にどういう関係でそうなったのかわかりませんが、材木町の光原社で坂田さんのコレクション展を開くことを知り、びっくりしました。それで切れたと思っていた縁が再びつながりました。

それから、約3年ごとに「世界の古民芸展」と云うテーマで約6回ほど展示会が開かれましたが、その時点では坂田さんはその方面では個性的なコレクターとして、テレビ・雑誌等で有名になっており、地方都市の盛岡で展示会を開くことになったのは光原社が相当アタックして実現出来たものと思っております。

その結果、私のコレクションの中心を占めるの

は坂田さんからのもので、主にヨーロッパの古民芸が大部分を占めております。ここがコレクションコーナーです。その中心となっているものはイギリスのスリップウェアと云うもので、今おまわしする本に詳しく載っております。

このスリップウェアと云うものは、18世紀から19世紀にかけてイギリスでオープン皿として使われたもので、料理が焼けたら、そのままテーブルに運ばれ、熱々の料理を頬張ると云う日常の食卓を支えたうつわであります。クリーム状の化粧土、これをスリップと云いますが、スリップで装飾して、低温で焼きしめた陶器です。

このスリップウェアには縞文様と抽象文様と2種類あり、ましてこれは縞文様の代表的なものです。そして、スリップウェアの美しさを見いだしたのは、実は本場のイギリス人ではなく、日本人でそれも有名な益子の陶芸家の濱田庄司さんと、これも有名なイギリス人のバーナード・リーチさんが一緒に3年ほどイギリスのセントアイヴイスと云うロンドンから遠く離れたところで陶器づくりをしておりましたが、ある時近所の家にお茶に呼ばれた際に、スリップウェアが実際に使われていたのを見てその素朴で美しさにびっくりしたのが発端で、それを日本に持ち帰り、日本の陶芸家に大きな影響を与えることになりました。

そして、イギリスのスリップウェアは現代の日本の焼き物に受け継がれていると云っていいほど日本製スリップウェアが作られております。

今までに日本に来たスリップウェアは約350枚と云われておりますが、各地の民芸館、美術館、そして陶芸家、骨董、古美術店等にちらばっておりますが、私のところには9枚あります。個人の収集としては多い方ではないかと思えます。どれも个性的ですが坂田さんの目にかなったものばかりと思っております。

その中で1枚だけ気になる皿があります。その文様はスリップウェアと云う本によると骨文様の分類になっており、食べたあとの肉の骨の形を模したものと書いてあります。本にはそう書いてあります。



しかし、私にはこれは錨に何かからんだものを表しているのではないかと見えます。それで調べました。そうしましたところ、古い雑誌にイギリス及びヨーロッパの中世の紋章に錨をモチーフにしたものがあり、特に蛇がからむものには、豊作、多産、生命を象徴するものとして尊ばれたとあります。又、錨にからむイルカの場合は錨の不動性とイルカの俊敏さから「ゆっくり急げ」とか「急がば回れ」と記されております。このスリップウェアの工房は海の近くに存在していたことから、海に関係し、幸運につながる錨にからむイルカ・ヘビ・ロープ等が原型となってデフォルメされてこのような文様になったのではないかと私は推測します。この9枚のスリップウェアは私のコレクションの中心になるものですが、その他にも、さまざまなコレクションを室のところどころに飾っております。



玄関を入った正面です。額にはアフリカの草で編んだビロードのタペストリーです。

その下は韓国の米びつで、現在スリッパ入れに使っております。右側には帝国ホテルの設計で有名なフランク・ロイド・ライトがデザインした電気スタンドとイギリス製の蛇腹の箱と倉敷のガラス作家小谷眞三作のデカンタを飾っております。

居間に入る足元に鬼あられ富士山型茶釜を置いていますが、これは岩手で作られたもので非常に貴重なものです。

居間入口の掛時計は19世紀のオランダ製で、下の陶器は会津本郷焼のにしん鉢と云うものです。



居間の内部でコレクションコーナーを含めて約30帖ほどありますが、雑然としてあります赤いはしご状のものはデンマークのキャタツで室のアクセントになっております。その奥がコレクションコーナーになっております。

夜の居間です。これはお茶の配膳ワゴンでフィンランドの有名な建築家アルバーアアルトのデザインです。

コレクションコーナーから居間を見た所で、赤いキャタツが右側に大きく見えます。手前にル・コルビュジエがデザインした椅子を置いてあります。



居間奥の壁面で飾り棚には古いピアジョッキが飾っております。

絵はモンドリアンのシルク印刷で手前にデンマークのエッグチェアと云う椅子が置いてあり、左のタンスの上にデンマークの照明器具が見えます。このように家具とか照明器具も集めております。

ピアジョッキには陶器、ピューターこれはスズと鉛の合金です。それからガラス製、木製と種類が豊富で、その中で一番気に入っているのが玉木模様のどっしりとしたバイキング・スタイルの木製ピアジョッキで、北欧のものです。

居間のもう一つの壁面で、右隅に私のもう一つのコレクションであります北欧の動物の置物を飾っております。約70個ありますが、非常に貴重なものもあり、現在では国外持出し禁止のものもあります。

市松模様のうつわの下はイギリスの教会で使われていた聖書を入れていた箱です。これも坂田さんからのものです。

居間から庭を見たところで、窓の上にちょっと見にくいですが日本の作家のタペストリーをかけて棚の上には民芸品を置いております。その一つ、ガラスの器も集めておりますが、デンマークのカイ・フランクと云う作家をはじめ有名作家の作品があります。非常に珍しいものです。



コレクションコーナーの棚です。日本・韓国・中国・イギリス・オランダ・北欧のものが飾っておりますが、もう置く所がない状態です。

それでも、これはごく最近手に入れたフランスの大皿で長さ50cmあります。これも坂田コレクションで使い込んだシミも魅力の大皿です。

ですからどうも私は死ぬまで蒐集は止められないと思います。

例会報告

第16回例会
平成30年11月2日(金)

12時30分 開会点鐘

- ・司会 坂本広行会長
- ・国歌 君が代
- ・ロータリーソング (奉仕の理想)
- ・会長報告 坂本広行会長
- ・皆出席バッチ 福田荘介君 (33年)・岩野法光君 (18年)・藤村吉隆君 (3年)・坂本広行君 (3年)
- ・入会祝 福田荘介君・藤村文昭君・佐藤仁志君・佐々木憲明君
- ・誕生祝 藤村文昭君・長野隆行君・米内 正君・熊谷隆司君・工藤幸一君・坂本広行君・橋本孝史君・中村芳樹君
- ・結婚祝 佐々木憲明君・熊谷隆司君・工藤幸一君・佐藤義正君・小川 惇君・近藤 駿君・平井 滋君・佐藤重昭君
- ・幹事報告 藤村吉隆幹事
- ・終了後定例理事会開催
- ・委員会報告

【ニコニコBOX】

- ◆吉田育弘君…盛岡市黒川に住まいを移し早40年。そろそろ年齢的に移動や管理が厳しくなり、元氣な

うちに下の橋の家に戻りましょうと、家内からの提案があり、私もその気持ちになっておりました。

そんなところに映画ロケ地に使いたいという話が飛び込んで参りました。

ロケーション担当のスタッフの方が偶然見つけられたとの事。

突然の来宅でしたが、内容がTV岩手開局50周年記念作品の劇場公開映画で監督が盛岡市出身の大友啓史さん^[1] 原作 沼田真佑著「影裏」^[2]と云うものでした。TV岩手さんの周年記念作品ということもあり、快諾いたしました次第です。

その日からおよそ50日間に渡って監督・スタッフの来宅はじめ、部門別のスタッフそれぞれが見・スチール撮影等でおいでになりました。

本番の日は、朝5時過ぎから午後6時頃迄 監督、俳優(綾野剛他)スタッフ総勢50名程で、家の中から庭全てを使つての撮影でした。

翌日の片づけから後日の精算まで、全てが終了いたしました。日常生活ではなかなか経験のできない、非日常の真夏の出来事でした。

そのような事がありました我が家ですが、実は売却することいたしました。

初めに触れました下の橋に戻る

にあたって、空き家にせざるを得ない状況になりまして、40年かけ育てた家は、家内・我が子以上の存在?になり、空き家にするよりはどなたかに活用していただきたいとの思いから決意した次第です。

映画の原作のイメージで、「坂道を上ったどん詰まりの所に建っている一軒家」そのままの高台立地、木々に囲まれた広い庭と離れが隣接した南向きのとても環境の良い所です。

ロータリーの皆様のご尽力を頂ければ、売却の折には大枚BOXをします。

以上、私の真夏の体験と、我が家のセールスでございました。

(脚注)

[1] 大友啓史監督

盛岡市出身 上田中学校、盛岡一高、慶応大学卒業。

1990年NHK入局 ドラマ「ハゲタカ」「白州次郎」「龍馬伝」等制作。2011年退職後は映画「ハゲタカ」「るろうに剣心」シリーズ「3月のライオン」等話題作を制作・監督

[2] 沼田真佑氏

小樽市出身 盛岡市在住 2017年「影裏」で芥川龍之介賞受賞

●メイクアップ

地区=田中君。

花巻R.C.=伴君。

盛岡西R.C.=佐藤(義)君。

クラブ委員会=畠山・片桐・勝・熊谷(祐)・三田・西島・佐々木・海野・吉田(育)君

出席報告

会員数/77名

出席数/51名

出席率/68.92%

前々回/83.56%



プログラムのお知らせ

- ・11月9日(金) ゲスト卓話 藤井 茂様 (新渡戸基金)「新渡戸稲造の志」
- 16日(金) 会員卓話 楢崎憲二会員
- 23日(金) 祝日休会
- 30日(金) ゲスト卓話 後藤博一様 (盛岡保護観察所所長)
- ・12月7日(金) 新入会員卓話 中村芳樹会員
- 14日(金) 年次総会・ゲスト卓話 下山寛会友

●本号編集担当/作田 尋